

## ピースボート 地球一周の船旅

池田 昭 (世田谷区)

### ピースボートによる地球一周船旅とは

街角や店先で「148万円 地球一周の船旅」のポスターを見かけ、一体どんな旅行会社の宣伝なのだろうと不審に思われている方も多いことでしょう。かくいう私は10年間にピースボート地球一周の船旅を4回も体験したりピーターなので、この疑問にお答えしたいと思います。

まずユニークな点は、ピースボートというNGOが企画し実行していることです。しかし、ピースボートという決まった船があるわけではなく往年の豪華客船をチャーターし、横浜発着100日間の地球一周を年に3回運航します。外国船籍なので船員は外国人ですが、乗客やスタッフは殆ど日本人で誰でも参加できます。



就航中のピースボート (オセアニック号)

ピースボートの旅といっても、旅行会社のツアーと同じ感覚の観光目的で乗船される方が多いのですが、NGOならではのユニークな面も多々持ち合わせています。この記事では意識してそのユニークな面を強調しながら説明することにします。

まず、一般の船会社との際立った違いを3つ挙げると次のとおり

- ① 他の船会社に比べ船賃が断然安いこと
- ② 若者や年配者 (特に一人参加の) が多いこと
- ③ 現地の人との交流が盛んなこと

### 乗船客の分布は？ なぜ安い？

乗客の半分は、シニア層 (リタイア族、子育てを終えた主婦) です。残りの殆どを20歳代の若者が占め、船内の雰囲気は若々しいのが最大の特徴です。また通常のクルージングではカップルで乗船するのが建前ですが、ピースボートの場合乗客の7割以上が1人参加なのも際立った違いです。



ルート① (北廻り→北太平洋)

旅行代金は、他の船会社が企画する地球一周クルーズ最低価格の半額以下です。ただし旅行代金は船室のタイプで決まります。うたい文句の148万円は4人で1室をシェアした場合で、私もこのタイプを幾度か利用しました。知らない人と3カ月一緒に暮らすことに誰もが不安を感じますが、同性、同年代の同じような境遇の人を組み合わせさせてくれます。

### 寄港地での楽しみ

次に「現地の人との交流が盛ん」なのは、現地NGOとの間にネットワークがあるからです。寄港地で現地のNGO活動に参加したり、家庭訪問して一緒に料理を作ったり、若者同士がサッカーやキャンプをしたり等のイベントも各種用意されています。もちろん、多くの方は世界遺産などの観光ツアーに参加するなど、思い思いに自由な行動をします。

### 航海ルート

横浜を出港するとシンガポール、マラッカ海峡を通過し、インド洋からは「北廻りコース」か「南廻りコース」のいずれかの航路をとります。北廻りはスエズ運河とパナマ運河を通り、南廻りはアフリカ大陸南端 (喜望峯) と南米大陸南端 (マゼラン海峡) を廻ります。

コースと寄港地はクルーズ毎に変わりますが、大雑把には次の図に見るように ルート① (北廻り→北太平洋) か ルート② (南廻り→南太平洋)、またはこれを組み合わせた ルート③ (北廻り→南太平洋) のいずれかのコースをとるのが普通です。

### ピースボートの魅力

同じルートでも寄港する都市に変化を加え、リピータにも魅力をもたせるよう工夫しています。一度乗るとその魅力に取り付かれて何度も乗船する人たちが多いのもピースボートの特長です。

ピースボートの旅は、「みんなが主役で船を出し、自分の目で世界を見たり、世界の人と交わりながら、自ら考え行動しよう」という趣旨でスタートしたプロジェクトです。万人向けを狙った企画ではなく、行き届いたサービスは期待できません。参加を考えたとき



ルート②（南廻り→南太平洋）

に自身の好みに合いそうかどうかを判断することから始めて下さい。

### 船上での生活

私はこれまで4回の地球一周の船旅に参加し、毎回20数カ国を訪れました。何回乗っても寄港地での観光や国際交流は楽しいし、常に新しい発見があります。でも船旅の醍醐味の決め手は船内で如何に楽しく過ごすかにあります。3回目の地球一周では22都市に寄港しましたが、2日間滞在したのはその内4都市のみでした。それ以外は深夜か朝方に着岸し、当日中に出港しました。従って全行程103日のうち、停泊していたのは26日のみで、残り77日間（75%）は海の上でした。船は動くホテルであるだけでなく、飛行機の旅と違って、生活空間、人との出会い・触れあいの場なのです。

毎日3食が用意され、家事や雑務から一切開放されて自由気儘に過ごせる世界は、特に主婦にとってはそれだけでも夢のような暮らしでしょう。朝食と昼食はブッフェ・スタイルで洋式・和式を選択可、夕食はスープからデザートまでのフルコースです。掃除は朝夕メイドさんがやってくれるし、洗濯はコインランドリーが利用でき、日常生活には何ら不自由を感じません。

船内の長旅は退屈だろうと心配される方が多いようですが、私の周辺で見る限り全く逆でした。朝配布される船内新聞の時間表を見て、どのイベントに出席するかを決めます。デッキやプールで過ごす人、ロビーや図書室で読書する人もいますが、船室に閉じこもることはめったにありません。多くの方が船内講座や、サークル活動に参加します。講座では日本人の先生や現地NGOの活動家から馴染みのなかった話題を聴き、毎日が勉強です。英語やスペイン語も全て通訳付きなので問題ありません。サークル活動は乗客の自主企画が中心で実に多彩です。ダンス、碁・将棋、麻雀、手芸、合唱、映画鑑賞、太鼓練習、南京玉すだれ、などなど。一芸を持つ人が「この指とまれ」と声を掛けると、習いたい人が直ぐに集まってきて仲間の輪が広がります。

この自主企画では教える側もプロではありませんが、語学教室だけは外人の専任教師20人が乗船し、レベル別に連日1時間半英会話を有料で教えます。3カ月でペラペラになる筈はありませんが、乗客の4分の1

が受講し、辞書片手に奮闘している光景は他の船では考えられません。先生方や通訳も無償のボランティアですが、船賃はタダなので応募者が多く能力・人物ともに優秀です。

「船マジック」という言葉があるようですが、船上では誰もがハイな気分になり、地上の生活では考えられないくらい活動的になります。若い子が目を輝かせて自発的に動き回り、素晴らしい能力を発揮する姿を見ていると、「近頃の若者は」などとは言えなくなります。3カ月間常に大学の学園祭の中にいるようでした。こういった騒々しい渦に溶け込める人には楽しいが、静かに一人でいたい人には少々煩い雰囲気を感じるかもしれません。

### 最後に

ノンポリの若い子でも、ピースボートに乗船すると社会や国際情勢に関心を抱くようになります。でも気にかけてあげなければならない事があります。ピースボートは、もともと平和活動の一環として1983年に早大生が始めました。世界の現実を自分の目で見て問題点を感じて欲しいという方針ですから平和運動を強制することは一切ありません。でも提携NGOや講師には平和活動家が多いので彼等から話を聴いているうちに、社会や政治に対する知識がなかった若い人は現状批判に染まりやすい傾向があるようです。

最後に付け加えたいことがあります。昨年9月からのピースボート地球一周のクルーズに広島・長崎の原爆体験者100人が招待され、寄港地や船内で被爆体験を証言しながら核兵器廃絶のキャンペーンを実施しました。実は筆者も長崎での被爆者なので、このプロジェクトに参加しました。日本国内ではあまり報道されませんが、世界各地でメディアが大きく報道し、草の根活動の反響の強さを実感しました。今年8月からのクルーズでも規模を縮小して活動を継続するそうなので成果を期待しています。